

2024年(令和6年)8月25日(日曜日)

水戸教会笠間支部から

菩薩の心を発信！ 「古着deワクチン」



集まった衣類を丁寧にたたみ、専用の回収袋に収める
(写真提供・水戸教会)

「こんなに洋服が集まるなんて」——6月下旬、水戸教会笠間支部の連絡

員がその一枚一枚を丁寧にたたみ、回収袋に収めてい

く。その量、実際に、衣類が約30袋入る袋が12袋に上った。

同支部が取り組むのは、日本リユースシステム株式会社が発行する「古着deワクチン」。

回収袋を購入すると1袋につきポリオワクチン5人分になるほか、回収された衣類は海外に輸出され、カンボジアの「古着deワクチン」直営センターで1点売れることにワクチン1人分が、ミャンマーやラオスなどの子どもたちに贈られる。さらに、回収袋を福祉作業所で製造するなど、国内外で雇用を創出している。衣類の断捨離を通して社会貢献できる仕組みだ。

「こんな洋服が集まるなんて」——6月下旬、水戸教会笠間支部の連絡員がその一枚一枚を丁寧にたたみ、回収袋に収めていく。その量、実際に、衣類が約30袋入る袋が12袋に上った。

同支部が取り組むのは、日本リユースシステム株式会社が発行する「古着deワクチン」。

回収袋を購入すると1袋につきポリオワクチン5人分になるほか、回収された衣類は海外に輸出され、カンボジアの「古着deワクチン」直営センターで1点売れることにワクチン1人分が、ミャンマーやラオスなどの子どもたちに贈られる。さらに、回収袋を福祉作業所で製造するなど、国内外で雇用を創出している。衣類の断捨離を通して社会貢献できる仕組みだ。

発端は数年前、島田安希子さん(73)と組長(70)が発した一言だった。「着ない服があるけれど、捨てるには忍びない」。支部で洋服の交換会を行ったが、その後も何かの役に立てないかささまな団体の取り組みを調べ、

古着回収を始めた。コロナ禍でしばらく休んでいたが、昨年に活動を再開。今年6月、「私たちの『発』応援プログラムを活用し、岩倉由季さん(35)と青年女子部長(70)が作成した「持続可能な開発目標」(SDGs)の達成に向けて協力を呼びかけるチラシを手に、主任らが地域住民にも声をかけた。衣類は前年の倍以上寄せられ、6月29日、7月10日に、衣類の選別と輸出を担う国内のセンターに発送した。中心となって活動を進めた岩倉利枝さん(68)と主任、谷津多佳子さん(70)と主任は「洋服を再利用でき、心が軽くなりました」「地元で協力の輪が広がり、私自身も人のために行動できたことが喜びです」と話す。他の主任たちも「余分な買い物が多かったと反省しました」「娘にも布施の精神を伝えられました」と話し、そして何より「みんなで楽しくできた」と口をそろえた。

発端は数年前、島田安希子さん(73)と組長(70)が発した一言だった。「着ない服があるけれど、捨てるには忍びない」。支部で洋服の交換会を行ったが、その後も何かの役に立てないかささまな団体の取り組みを調べ、

古着回収を始めた。コロナ禍でしばらく休んでいたが、昨年に活動を再開。今年6月、「私たちの『発』応援プログラムを活用し、岩倉由季さん(35)と青年女子部長(70)が作成した「持続可能な開発目標」(SDGs)の達成に向けて協力を呼びかけるチラシを手に、主任らが地域住民にも声をかけた。衣類は前年の倍以上寄せられ、6月29日、7月10日に、衣類の選別と輸出を担う国内のセンターに発送した。中心となって活動を進めた岩倉利枝さん(68)と主任、谷津多佳子さん(70)と主任は「洋服を再利用でき、心が軽くなりました」「地元で協力の輪が広がり、私自身も人のために行動できたことが喜びです」と話す。他の主任たちも「余分な買い物が多かったと反省しました」「娘にも布施の精神を伝えられました」と話し、そして何より「みんなで楽しくできた」と口をそろえた。

藤本江身さん(53)と組長(70)は、「この取り組みは、誰もが持っている人の役に立ちたい」という心を引き出してくれたいと思います。今後も地元の人に取り組みを発信していきたい」と抱負を語った。

再利用でき、心が軽くなりました」「地元で協力の輪が広がり、私自身も人のために行動できたことが喜びです」と話す。他の主任たちも「余分な買い物が多かったと反省しました」「娘にも布施の精神を伝えられました」と話し、そして何より「みんなで楽しくできた」と口をそろえた。

藤本江身さん(53)と組長(70)は、「この取り組みは、誰もが持っている人の役に立ちたい」という心を引き出してくれたいと思います。今後も地元の人に取り組みを発信していきたい」と抱負を語った。

藤本江身さん(53)と組長(70)は、「この取り組みは、誰もが持っている人の役に立ちたい」という心を引き出してくれたいと思います。今後も地元の人に取り組みを発信していきたい」と抱負を語った。

藤本江身さん(53)と組長(70)は、「この取り組みは、誰もが持っている人の役に立ちたい」という心を引き出してくれたいと思います。今後も地元の人に取り組みを発信していきたい」と抱負を語った。